

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2018-3005	利用形態	共同研究	利用する 試料・情報	DNAメチル化情報、ゲノム情報、アンケート情報、フローサイトメトリーの細胞比率の実測データ	
主たる研究機関	佐賀大学			分担 研究機関	岩手医科大学 いわて東北メディカル・メガバンク機構	
研究題目	ALDH2多型の新規表現型: キラーT細胞率低値の検討			研究期間	共同研究契約締結日～ 2019年11月30日	
実施責任者	松本明子	所属	佐賀大学医学部社会医学講座		職位	講師
研究目的と意義	ALDH2は飲酒によって発生するアセトアルデヒドの責任代謝酵素である。欠損型ALDH2遺伝子変異は東アジアに限定的に存在することが知られており、様々な表現型を示す。モデル動物を用いた予備検討等で、ALDH2多型が細胞性免疫に影響を与える可能性が示唆された。本研究ではALDH2多型の新規表現型として細胞性面系への影響を検討することを目的としている。新規表現型を報告することができ、多型ごとの生活習慣や治療方針の提案、新規治療薬の開発などに発展させることができる。					
研究計画概要	佐賀大学において、質問紙により推定し、頬ぬぐい液から採取したDNAで確認したALDH2*2/*2遺伝子保有成人ボランティア50名の血液を採取し血球を分析する。性・年齢をマッチさせたALDH2*1/*1、ALDH2*1/*2遺伝子保有者それぞれ100名の血液について分析する。エタノール代謝に影響するADH1B遺伝子多型も同時に判定する。いわて東北メディカル・メガバンク機構の既存データベースよりフローサイトメトリーの細胞比率の実測データがある100名分のデータを用いてCD8陽性細胞率とALDH2およびADH1B遺伝子型を抽出して同様の解析を行い、再現性を確認する。また、DNAメチル化データ取得済みの400名のデータを用いて推定されるCD8陽性細胞比率の推定値についても同様に検討し、再現性を確認する。さらに、全血球数・血球分画のみのデータがある2万3千人のデータを用いてALDH2およびADH1B遺伝子多型の関係について検討し、ALDH2多型がCD8陽性細胞率に与える影響の背景を検討する。なお、すべての検体は既にゲノム解析が実施されてデータ化されており、新たなゲノム解析は不要である。					
期待される成果	これまでに知られていなかった、ALDH2多型と細胞性免疫とのかかわりについて、新たな知見が得られる。自身の遺伝型を知ることによって、病気の予防に役立てることができるようになると思われ、体質ごとの疾病管理法の提案など、予防医学的、臨床医学的な検討に発展する。					
これまでの倫理 審査等の経過	佐賀大学倫理委員会で承認された(30-12:2018年7月25日、30-16:2018年10月5日)。 岩手医科大学医学部倫理委員会で承認された(HG2018-526:2019年2月7日)。					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	・「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に基づいた管理を実施する。 ・東北メディカル・メガバンク事業の試料・情報分譲審査委員会の定めるセキュリティポリシーを遵守する。					
その他特記事項	なし					

(事務局使用欄)

* 公開日

平成31年3月18日

* 岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク事業に協力された方で、本研究に限って試料・情報の利用を希望されない方は、下記までご連絡下さい。
岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構 019-651-5110(5508/5509)